

国立台湾大学の学生が来所

2013年7月26日の午後、第一回京都大学－国立台湾大学大気科学学生交流事業の一環として、防災研究所に国立台湾大学の学生5名が来所されました。まず、国際交流室で向川均教授がブロッキング高気圧の予測可能性について、榎本剛准教授がデータ同化についての講義を行いました。続いて、会場を移して、学生等は、防災研究所紹介DVD、宇治川オープンラボラトリーの実験映像の視聴後、防災ミュージアムを見学し、防災研究所の研究や災害のメカニズムについて、とても興味深く学習していました。

